

## 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

## 1. 始めに

平成29年度より、山梨県大村智人材育成基金の奨学生としてアメリカ合衆国オハイオ州フィンドレー大学に約9か月間留学しておりました、芝井千夏と申します。中学時からの目標であった留学を無事に終えることができ、達成感と応援して下さいました皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。

留学前から、将来の目標は中学校英語教員でした。その目標は今でも変わりません。しかし、留学を通じて、単に指導要領に従うだけでなく、より実践的で、生徒に英語の必要性や可能性、楽しさを伝えられる教員になりたいと思うようになりました。また、英語だけでなく広い世界を教えられるような教員になるというのも新たな目標です。



シアトルにて↑

さて、私は留学中に毎日必ず続けてきたことがあります。それは、日記をつけることです。その日にあった出来事はもちろんですが、その時の感情や風景を記したり、特別な日には入場券やチラシなどを貼ったりして記憶に残るように工夫してきました。日記をたどりながら、日々の生活、受講した授業、イベントなどを中心に報告書を進めていきたいと思えます。

## 2. 日々の生活について

## a) ハウジング

大学ではキャンパス内に住まなければならないという規定のもと、日本人2人、ケニア人1人、アメリカ人3人の計6人でシェアハウスをしていました。ハウスマイトとは共に過ごす時間が多く、家族のような存在になりました。特に、ケニア出身の Matilda とは授業もアルバイトも同じで、家を出る時から帰宅する時まで一緒にいることが多かったです。なにかあればすぐに話を聞き合い、時には明け方まで話すこともありました。彼女は留學生活においてなくてはならない存在でした。

また、友人を呼んで一緒にご飯を食べたり、勉強をしたりして、賑やかな毎日を送ることができました。留学前は料理が全くできなかったのですが、友人に日本食のおいしさを知ってほしく料理の腕を上げることもできました。寮とハウスで選択可能だったのですが、ハウスを選んで本当に良かったと思っています。



Matilda と共に↑

## 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

## b) アルバイト

春学期には短期間ではあるもののアルバイトをしていました。日本でも嫌と言うほどアルバイトをしていましたが、アメリカでも働いてみたいと思い短期のものを選びました。アメリカは学生ビザではキャンパス外で働くことができないので、キャンパス内にあるダイニングホールで働きました。働く前に、セキュリティナンバーと言うものを取得するためにセキュリティオフィスに行ったり、面接をしたりと海外で一から働くことを経験できました。中でも、セキュリティオフィスが印象に残っています。セキュリティナンバーは日本でいうマイナンバーのようなもので、その番号があれば個人を特定できます。ですので、セキュリティオフィスの雰囲気は重々しく、銃を持っている警備員がいたり、銃の持込禁止のマークが至る所に貼ってあったり、言語が英語だけでなくスペイン語でも記されていたりなど、日本では見られない光景を見ることができました。もちろん、お仕事もみんな親切で和気藹々と楽しむことができました。

アルバイトの様子↓



## 3. 授業について

## a) 秋学期の授業

秋学期は英語の授業や、日本文化とアメリカ文化を比較する授業 (Experience in Japanese)、アメリカの小学校や高校でボランティアをする授業など、英語と教育に関する授業を履修していました。英語の授業に関しては Reading, Speaking, Listening, Composition を中心に学んでいました。中国やネパール、サウジアラビア、オランダ、ケニア、メキシコなどから



クラスメイトと共に↑

の国際色豊かなクラスメイトと共に授業を受け、今まで出会ったことのない国の友人ができ、異文化を知ることができました。例えば、サウジアラビアでは道端で困っている人がいれば、自分が車を運転していたとしても車から降りて、その人の問題が解決するまで一緒に付き添ってあげる「助け合い」の文化があるそうです。また、女性が海外に一人で行くことは禁止されており、身内の男性が付き添いで行くことが規定されているそうです。日本にはない概念で興味深いと思いました。ニュースで見る情報だけではなく、自分で見て聞いて経験して得る情報はかけがえのないものだと考えます。ここで友人から得た知識は、将来教員になった際の貴重な財産になると確信しています。

## 山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

英語の授業に関しては、もちろん座学もありましたが、実践的な授業が多いように思いました。Listening の授業ではクラスの外に出て、学生の会話を聞いてくるよう指示され、会話から拾った単語で会話を推測したり、若者言葉を習ったりと授業が終わったらすぐに実践できるような内容ばかりでした。日本では、国語であっても英語であっても授業内で若者ことばを使うのはそれほどよしとされていません。しかし、アメリカでは先生方も若者ことばを使うし、ましてや若者ことばが授業の題材になったりもします。日本でこれを行うのには時間もかかると思いますし、抵抗もありますが、限度を超えないような若者ことばを取り入れた教育も実践的で面白いのではないかと思います。

他の例として、Speaking では聞き取り調査をする課題が出されていました。題は SNS について、異文化についてなど様々でしたが、授業外の学生と話すきっかけにもなりましたし、英語だけでなく聞き取った結果を通じ、アメリカ人や留学生の考え方や異文化を知ることができました。

このように、実際に使える生きた英語を学ぶことで、生徒たちのモチベーションも上がりますし、英語を学ぶ、きっかけにもなるのではないかと考えました。来年には教育実習があるので、ここで学んだことを活かして指導を行うのが大変楽しみです。

**b) 春学期の授業**

春学期は、クリミナルジャスティス、マクロ経済学、スペイン語など幅広い分野の授業を履修しています。秋学期と比較して現地の学生と受ける授業が格段に増えたので、秋学期とはまた違ったカルチャーショックを受けることもありました。最初の授業で、私は授業の内容があまり分からず隣にいた学生にノートを見せてくれないかと頼んだことがあります。すると、No という答えが返って来て傷ついたので覚えています。アメリカの学生は GPA を日本の学生の何倍も気にしています。そのため、自分が努力して取ったノートを他の生徒に見られるのを嫌がる生徒もいるようです。友人によると、ノートを商売に使う学生もいるようで、ノートの価値は日本よりもあるそうです。普段の授業を大切にし、自分自身の成績に責任を持って当たり前というアメリカの学生の姿勢を見習わなければと感じました。

履修した授業の中では、特にクリミナルジャスティスが私にとって新しい学問で興味深かったです。クリミナルジャスティス(刑事司法、刑事裁判)ではアメリカの死刑制度の歴史、現在の死刑制度、警察の採用方法、銃社会への取り組みなどを学びました。留学をして想像していたよりもアメリカは様々な社会問題を抱えているということに気づきました。アメリカンドリームという言葉もあるようにアメリカは自由で裕福な国というイメージでしたが、ドラッグ、銃、移民、人種などアメリカならではの深刻な課題を抱えていることが分かりました。実際、オハイオ州は全米で二番目にアラビア系の多い国で、厳重なテロ警戒

## 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

態勢が整えられています。警戒活動の中には、人種差別ではないかと思うようなものもあります。例えば、サウジアラビア出身の友人の話によると、友人は 1 mi/h ほど超過したスピードで運転していたところ、警察に呼び止められたそうです。そこで自分の ID カードを見せ、警察が友人はサウジアラビア出身だということに気づいたとき、車から降ろされ手を後ろで組まれたといいます。それだけでなく、車の中のみならず、カバンの中から服まで隅々でチェックを受けたそうです。最後には、警察官は友人が出していたスピードの倍の数字を記し、2 時間後ようやく友人を放したと言います。友人がサウジアラビア人でなければ、このようなことは起こらなかったと思います。実際、私が日本人の友人の運転する車に乗った時、同じ状況に遭遇しました。しかし、その友人は ID カードを見せチケットを切られただけでした。おそらく 30 分も経過していなかったように思います。このように、見えない所で人種差別が起こっているのです。クリミナルジャスティスの授業を受けることで、新しい視点を得ることができましたし、日々起こった出来事と授業の内容を照らし合わせてアメリカの新たな側面を垣間見ることができました。

#### 4. イベントについて

##### a) ミュージカル

2 月 2 3 日から 2 5 日まで、ミュージカルのキャストとして舞台に立ちました。フィンドレー大学にはミュージカル専攻があり、毎年一回大規模なミュージカルの公演があります。今年は funny girl という作品をみんなで作り上げました。funny girl は 1964 年にブロードウェイで公開、1968 年に映画化された古い作品で、ある舞台の売れない踊り子 Fanny が、Nick という男性に出会い、波乱万丈な人生を歩みながらも成長し強くたくましく生きていく姿を描いた内容です。この作品は、私たちのディレクターである Vicki の最初に挫折を味わった作品でもあり、退職前の最後の作品でもあったため、キャストの意気込みは勢いのあるものでした。



メイクの方法も教えてもらいました↑

1 1 月に校内でダンスと歌のオーディションを受け、見事合格することができ、歌とダンスのパートをもらいました。冬休みが明け、1 月から本格的に練習が始まりました。練習が始まった当初、私は孤独を感じていました。なぜなら、ミュージカル専攻、そして毎年公演を通じて既にキャストの人間関係が出来上がっていたからです。最初は練習に行く度に、声をかけるよう努力したものの一人であることが多く、寂しい思いもしました。また、日本人だから留学生だからといった甘い考え方は通用しません。ディレクターを含め指導者の

## 山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

先生方は、キャストをオーディション通過者として平等に指導していました。最初は英語の歌の意味や発音も分からず、ダンスの説明を上手く聞き取ることもできないでいました。

そこで私は、このような弱い自分であることがとても悔しく許せなかったので、3つのことを続けるよう努めました。それは、とにかく話しかけるといこと、話し相手の名前を必ず呼ぶこと、そして個人練習をすることです。これらの取り組みは多くの変化をもたらしてくれました。話しかけることでキャストのことをもっと知ることができ話題が広がりましたし、名前を呼ぶことでキャストも私の名前を呼んでくれるようになりました。仲が



深まってからは、私が歌やダンス、立ち位置に困っていると必ず誰かが手を差し伸べてくれました。日々、仲が深まっていく中で孤独感というのはきれいになくなっていました。

3回本番をしましたが、どの公演も感動し続け、カーテンコールでは隠れて泣くのに必死でした。衣装もメイクもライトも何もかも本格的で芸能人気分を味わうことができましたし、そしてなによりも大切な友人がたくさんできました。オーディションを受けようと思った自分自身を誇りに思います。ミュージカルを通じて、言語はもちろんですが、自分がどう行動し、相手にどうより添えるかも重要だと学びました。

キャストとの写真

### b) インターナショナルナイト

3月16日には、インターナショナルナイトが開催されました。このイベントはフィンドレーのニュースでも取り上げられるほど大きなイベントで、渡米する前から参加したいと思っていたものの1つでした。自分の国に誇りを持ち、それぞれの国を尊重し合おうという目的で開催され、フィンドレーの43か国からの留学生のうち約半分の国が参加しました。それぞれの国が伝統料理を作ったり伝統衣装を着たり展示を作ったりと賑やかな日になりました。私たちは祭りをテーマに、ヨーヨー釣り、輪投げ、箸を使ったゲーム、うどん、そしてよさこいを披露しました。日常生活で日本について知ってもらえる機会があまりなかったため、友人や先生方に日本ってクールだね、と褒めてもらった時は大変誇らしかったです。

また、学生以外に地域の方も来ることができたので、多くの地域の方や子どもたちにも日本文化を知ってもらえるいい機会になりました。

## 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

**5. 教育について****a) 小学生の日本語指導アシスタント**

春学期より、週に一度小学校で日本語指導のアシスタントをさせて頂きました。海外で教育に関わってみたいと思っていたところ、友人がこのような機会を提案してくれ、実現させることができました。私がお世話になった Van Buren 小学校では毎年、他言語を学ぶ 30 分の小クラスが設けられます。今年は、日本語に加え、スペイン語、韓

日本語指導の様子↓



国語、アラビア語の授業がありました。日本語はスペイン語に次いで二番目に人気で、多くの児童と共に私自身も学ぶことができました。小学校から他の国の人々と関わり、他言語を楽しみながら学ぶ、という経験は、特にアメリカの子どもたちにとって本当に大切なのだと思いました。たとえ白人が約 82% を占めるというオハイオ州であっても、子どもたちの中にはアジア系やアフリカ系などたくさんの肌の色がありました。自分のアイデンティティやクラスメイトとの違いを理解し、認め合うにはこういった活動を取り入れることが重要なのだと改めて感じました。この活動については、県政の課題の方でより詳しくお伝えしたいと思います。

**b) 海外の英語教育事情**

私は「世界ではどのような英語教育が行われているのか」に興味を持ち、フィンドレー大学の留学生を対象に個人的なアンケート調査を行いました。43 か国の内、19 か国の留学生が協力してくれ、各国の英語授業の取り組みや日本の英語教育に取り入れるべきものの明確化を図ることができました。これについても県政の課題の方で詳しくお伝えしたいと思いますので、そちらの方にも目を通していただくと幸いです。

**6. 終わりに**

今回の留学で私が必ず守っていた自分の中のルールがあります。それは、なんでもやってみる、そして、誘われたら断らないことです。楽しそうだと思うことも、面倒だと思うことも、やってみるようにはしていました。そうすることで、英語に触れる機会はもちろんのこと、新しいものであふれた刺激のある毎日を過ごすことができました。英語で夢を見ることや、友人と英語で言い合いをする場面だってありました。これらのことは留学する前は

## 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

考えられないことだったと思います。それに加え、学内で一人しかもらえない outstanding intercultural student という賞もいただくことができました。その表彰式の際、“Bravery is not a quality of the body. It is of the soul”.（勇気とは、身体能力ではなく、不屈の精神から生まれるものだ。）というガンディーの言葉を一緒に頂き、自分が留学中に守ってきたルールを、周りの人々にも認めてもらえたのだと感じることができました。

自分なりのルールや目標を定め、それ向かって日々を過ごせば必ず得るものはあると確信しました。継続することが苦手だった私ですが、日記をつけることやルールを常に意識することを継続することで、何倍も中身の濃い日々を過ごすことができると気づくことができました。この学びはほんの一部に過ぎません。この留学で得た多くの新たな考え方、知識、そして経験を糧に、将来の目標を叶えるべく日々精進していきます。



表彰式の際の写真↑

### 添付書類

留学結果報告書（別紙様式 4—B）

留学で学んだこと及び学んだことを今後どのように活かすかなどについて、

4000字程度で記述してください。

※10枚以内に収めてください。

※パソコン・ワープロ使用可

（使用する文字は12ポイントとしてください。）

※留学先での様子が分かる写真も添付してください。